

續談海

天明二年

八十之一

庫 文 閣 内			
五〇函	三一冊	三四一號	和書類
一不架			
十三才			

内閣文庫	
番號	和 34541
冊數	31 (30)
函號	150 94

BOOK 11

共世



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

續淡海

八拾一

齋戒



漢澹海卷八拾

天明二壬寅年

正月大

元日二日所祀如例年所規式亦如

二月三日所祀如例年所規式亦如

八日所祀如例年所規式亦如

所祀如

老松親世

新九布

西石布

东小布

三布

又六布



高秋太史

二天席
六幕

右右
又三席

弓箒立合

冬唐
信高席

志作

月六日如列年寄北所禮の〜
月七日如列年若葉の所禮の〜

羽目間

伊勢所馬代

一金抄移致門

推致
推致
外窓

他り所方

抄振

日光所馬代

一金抄移致 他り所方

右所名代高家上徳川後水海

全後抄移致
時後抄移致

高家

横濱後河守

右伊勢所名代内所

口以

全後抄移致
時後抄移致

六角越守

右京都所名代内所

口以

全後抄移致
時後抄移致

武田母藤守

右日光所名代内所

右大和所名代内所

徳右衛門初彦縁歌

時據之

流初初文九布

右門馬 右初彦

右大和守辰中初彦是洋歌中初彦

初初彦

初初彦之右書

流初初彦

可扶記

右門馬

右右見守辰中初彦是洋歌中初彦

月十日と野曲 初初彦 初初彦 初初彦

初初彦

一月十日如列年 初初彦 初初彦 初初彦 初初彦

初初彦

初初彦

松尾小松初彦 初初彦 初初彦 初初彦

長宗 初初彦 初初彦 初初彦

初初彦 初初彦 初初彦 初初彦

初初彦 初初彦 初初彦 初初彦

初初彦 初初彦 初初彦 初初彦

初初彦 初初彦 初初彦 初初彦

初初彦 初初彦 初初彦 初初彦

初初彦 初初彦 初初彦 初初彦

初初彦 初初彦 初初彦 初初彦

山も少く、その名の如く、陰陽に
あつた、その名の如く、谷川
永尚

寺多、鴨、山、名、の、座、成、整、ま、り、し
清村

を、お、お、ま、り、し、い、れ、お、お、ま、り、し
昌徳

を、お、お、ま、り、し、い、れ、お、お、ま、り、し
昌恭

う、つ、ま、り、し、い、れ、お、お、ま、り、し
秀古

石門一頃

伊波整

火消役

能勢常力

小普請支配
白瀬甲斐守宛

お合

山、名、の、如、く、陰、陽、に
山、名、の、如、く、陰、陽、に

伊波整、森、川、統、也、宛

谷、川、整、也、宛

為、在、伊、波、大、内、宛、守、宛

子、五、一、つ、斗

日、津、津、山、城、也、宛

松、前、先、之、宛

伊、波、整、也、宛、守、宛

林、左、京

日、津、津、山、城、也、宛

鴻白次多書
栗田書院
松平志店

城 二九博門

右旅街家之 作身

一吹上旅街庭伊村場初大の上流之

同十一日

市右第初屋録

伊原松平志店

町坂

川勝月紀

石吹日旅吹上中多飛大的

上流之 出情指南作身

躰滔間

高小平在書

松平之祝

古倉志四席

古多源氏席

友方劫在書

大性又之席

日根生左系

坂初十席名書

作野六十席

豊清七十席

合之教免

石吹日旅吹上大的出勅作身

右為序長主殿政及中為序長主殿政

一 月廿二日奥沙能々々

一 月廿七日御系山沙宮に為事す方との成

四ツ上討す方す還所

一 月廿二日 芙蓉間

紀伊中納言殿使者

水野對馬守

右者紀伊殿沙能々々序續損毛月令討方為序

備々 任付首所先中 中列先之殿政及七任付

一 月廿二日御系山沙宮に為事す方との成

の成九方す方す還所

上夜六箇伊豫守

日光門下

右為月沙初禱科

右以 上使とを々

一 正月十三日中奥山能々々

是梅老上

右秋

流八次

親世大吏

長原守

守田

長原守

六次

九次

又三

弓

庖丁解

八重門

守田 若物
守田 若物
守田 若物
守田 若物
守田 若物
守田 若物
守田 若物
守田 若物
守田 若物
守田 若物

栲綱 八巻の

控大り
山田巻

後物
虎市

新三席
又三席

間

小尾久右衛門

礼 三席

巻大り

新九席

西巻大り
三巻大り

一 正月十四日尾別沙城下出火の由

一月十六日日光御宮下極楽院出火の残坊焼由

天明二壬寅の歳且并壬子の歳言を証する

相款

牛込馬場見馬場

深津秀安

刃さのわりのまよふをせり元辰よと信ふ

蛭面坊

いゝ春うさふく〜ありまふふとせ

わのな〜人やは〜賽の目

暮よよふふ初春〜不題も〜我〜

あしは〜のれ〜を〜漢傳

初〜ふ〜い〜お〜あ〜

か〜て〜思〜代〜あ〜ら〜

将泰よよふふ歳言〜り〜歌〜

〜の〜言よよみ〜

入〜れ〜る〜あ〜つ〜ま〜ぬ〜子〜の〜れ

〜の〜将泰〜と〜た〜ま〜か〜〜飛車

柴旦

志家と母が善くの一とみりさい
高繩やよもきりし梅の初見
え日や葉しともあふ新葉うけ
采号

年の尾ぬまきつりし吾の上
門の音うすきたるいのまうこね

海人の家の産のねり

やまののさん志う志の浦のま

玉のよもあぶるんまのま

勇あよのあぶるま

まのこをうれまよけ梅もま

志町家の山とやまのま

石仕もけす布不洞法つ

可りま

いりりり大坂山とあ

まけしれまのの

父陣道朝死哉

学たらんまきたるの

衆の合下のみま

口廣

元ル二月在七日西國橋河内宮は

眞實を信ずる時、大教に時、正徳、後徳
光、来、之、下、を、以、信、佛、を、希、と、す

申村 卯 卯 布

子、成、る、心、と、親、不、志、る、身、と、先、眞、樂、世、の
あ、し、時、平、く、世、變、の、指、を、成、知、て、は、業、成、
許、さ、さ、し、ふ、心、と、し、し、し、の、ふ、し、と、な、り、れ、を
し、と、や、り、し、よ、と、し、と、を、人、教、子、加、り、且
皇、教、を、わ、か、サ、と、せ、と、さ、し、と、父、を、心、は、し
ゆ、と、ま、れ、孝、弟、^子し、る、し、ふ、業、の、業、永、く
は、た、と、あ、り、し、父、の、道、の、神、を、く、し、し、
又、他、成、願、さ、し、は、師、一、く、さ、り、福、は、今、や

この業成止く、身速きうけ、し、ら、る、と、思、ふ、
ふ、り、し、し、一、苦、を、し、し、し、の、眞、實、を、信、し、多、年、に
此、乳、を、P、を、し、ん、と、成、成、ふ、ま、す、
父、の、粉、骨、成、を、し、し、功、成、し、右、を、の、れ、を
さ、た、り、を、捨、つ、し、し、
あ、し、し、し、

渡、り、よ、れ、世、と、は、さ、り、り、の、ま、の、あ、眞、樂
時、成、知、り、私、を、知、ふ、急、に、心、を、た、の、し、
男、子、の、ほ、り、を、打、殺、さ、り、し、
白、戸、橋、存、義

答 意

高、な、の、方、淨、る、

ま古の身澤る
子休 不他

寅二月

彫工中出斗園

言申の下駢 佐老志次

此下駢をまうりさうり白雲の

まらねもやねりぬうりさうり

愚家の言

白雲と 借入とつりてき

拂ハぬ家の横は藤よりり

材の素袍のまらねのけさ

ま裁とさうり

入行成りまの素袍のたもさうり

まらねの宿は風の涼さ

まらねの糸はまらねの糸

まらねの糸はまらねの糸

六弦をいさうけ付ぬまらね

園部のまらねのうら

自序

天神七代地祇代のる此宿は通神に依

るといふ時ありまは時世界をふりて天竺

てい大西仏唐よりハ漢のことも梵字の阿字に

夕ぐし 或るいなりと 文字の四角か
 玉子ともゆつゝふゝのまじりたる
 初ふれいらはにはとちつとんと連珠の
 口之味録の潤子よのふ道り 和漢口誦
 もやまやとあるもの中を九心と九心と
 深たふ筆つとふ時代をわけて考ま
 凡十子万八十年とふとふと天皇の
 何とてふとて

馬鹿羅列 阿林子乞

- 一 二月朔日月並く伊礼
- 一 例年通日光 伊後伊項載
- 一 日光伊つと伊礼 城伊對秋上野
- 一 院伊つと家年伊人 外年改伊礼
- 一 月四日吹上放伊庭大的 上院

村名姓名

十井者之師之博
 〓 台对源多博
 〓 藏田總之助
 〓 尾 大次郎
 〓 加夜比之希

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 山, 水, and 村.

才 移 辰 之 節 書

三 文 七 之 節

片 佐 野 谷 之 節

三 河 崎 八 之 節

紅 森 海 之 節

片 柳 京 之 節

三 小 崎 京 之 節

才 之 橋 十 左 之 節

三 水 井 谷 之 節

三 乃 文 傳 之 節

三 乃 文 帶 之 節

三 笠 原 平 之 節

片 大 河 京 之 節

才 山 中 之 節

三 留 永 傳 之 節

三 米 村 之 節

三 本 多 之 節

三 堀 入 之 節

三 勝 倉 老 之 節

片 天 野 之 節

才 幸 田 秀 大 之 節

三 淺 井 傳 八 之 節

凡小林又玄書
十真津左多書
〃京田安老書
〃佐我以而玄書
凡竹門内月記
〃本室之居之布
十毛呂十玄書
〃杉浦吉之書
〃小野之布之書
十坂了也九布
〃上屋四布多書

凡富永龜之書
〃中島榮之書
十神田藏之書
〃勝尾小源之書
〃朝比奈元之書
凡真津菅八布
十卷津市而之書
十大草考之書
〃石交左之書
〃佐力合之書
〃小尾守之書

丁小林決之布
凡小笠原の邸
寺尾岩之邸
凡小埜決之邸
" 淡井通之邸
" 飯室之邸
十膳部一平
" 新木家次布

以上

- 一日あり王子翁に成云氣お府に成り
- 一日あり殿中帳抄小袖麻上下共用

旅芙蓉同布衣以上諸合之布に成り
若年身元傳及大和守殿に
行旅君旅徳川若代殿に
仁海に

焼之間

給師任者門記子
板倉菱丹

- 右之に 石倉に授持方之人授持之下に用
- 十日九日王子翁に成り
- 一日十日法書付之

種娘君種所縁能之 何處かをほね候
於席へ過る

一月十日 芙蓉間

高家

種娘君種所縁能之 傳 七波大指去更

日光上 所在代 口代 大友同博守

石内を中 所列 大和守 辰之 何處か

一月十日

薮澤ら

支死劫定

合 齋高

猪俣要右ら

右下 徳正 市 懐 浪子 葛 沼 新 田 陽 平 守

の法用 子 哉 比 守

口代

口代

菊地 惣 内

石内 大 隈 辰 村 川 水 内 之 子 哉 比 守

右 出 羽 辰 辰 所 在 洋 統 十 守

一月十日 於 眞 所 縁 能 之

所 右 第 七 所 縁 能 之

中 性 經 太 公 孫 玄 妻 辰 經

時 後 之

保 之 吉 次 市

中 書 院 奥 村 本 初 末 守 經

口代

大 沢 玄 之 經

石云九日王子為上
石大和寺殿
一日八百多可法礼

伊左間

初所對款

徳川若千代殿

為湖間

若千代殿初

紀伊中細云殿

伊墨書院

松平又八

一日廿二日於真伊能

芙蓉間

小普請寺行

若本内指心

此目付

柳生之指心

此劫是少津設

倉橋与四郎

右之印系心
上持子之所
長子也
長子也
長子也
長子也

信後

一月廿五日今日野

至心院極沙靈寺上沙成句々沙延川

一月廿九日

帝艦間

勅使

院使

女院使

新女院使

戸波上総物

藏回山城守

関備前守

筑前伊勢守

代り秋田佐藤守

堀丹波守

大宮使

右尚春茶向々公家院沙馳乞人々 信房守中

出別大和守殿之

信房

二月十日大奥沙徳組

病後之患

病後之患

伊勢守

平右衛門

新九郎

信房守

長二

半右衛門

同

次席右衛門

秋仙

仁右衛門

小町

七右衛門

兼平

宗久

元帥

信房

先右衛門

信房

知章 おぼろ

茂大 茂大

良介 良介

立長

同

久嘉

江口 江口

良哲 良哲

二大 二大

日向守

同

仁大 仁大

宗久

宗久

女 女

却秀

乃 乃

格 格

若 若

あ あ

同

宗和

友平 友平

長祝 長祝

日向守

古元 古元

同

却秀

子 子

舞馬 舞馬

久 久

市 市

籠 籠

同

小 小

後 後

春 春

氏 氏

新 新

又 又

同

七 七

八 玄久

お家 宗和
ていご 宗和

海七 子方左衛門
山城守

母屋守 次子守
長太郎 言哲

久米 守多
三子 徳光守

同

夜太衛門

附祝云 千秋乐

一月廿二日 中奥所往

嵐山 親世守

山内徳兵衛
長右衛門 尾崎守

三子守
新九郎 恵壽
店五郎

乃様筆

通次郎

八幡前

徳右衛門

三子守 右め川守
甲て右め川守
左守 右め川守

実盛 七次守

長合守
長次郎 長守

九郎守 長守
清守 小八郎

同

珍守 左四郎

若市

八右衛門

若市 八右衛門
三子守 八右衛門
山内守 八右衛門
山中守 八右衛門

東小合意交

新日吉
山田

市席

又六席

間

園村

車傍 又

之

三

新

間

倉谷八三席

合津地宛

仁

親 岡田七人
長今安
園村
角北
小谷
高井

子方
三
日谷
富

為帽子折

小

成

之席

又三席

令
令
日
令

間

宿
子
盗

角
日
長
矢
園

一口海白

西九大真

世中... 子... 長之... 宗女... 八...

同

録

少... 久...

後...

...

...

...

同

...

世... 孫...

七... 久...

...

盛...

馬...

...

...

裂... 六... 八... 四... 新...

安宅...

正...

...

...

...

同

...

...

...

...

...

...

...

同

...

如...

春祭

正步階

子...

...

七席...

...

盛隊

同

...

...

...

...

...

同

...

...

...

...

盛隊

...

...

附祝云...

二月...

...

...

...

...

...

...

...

...

乃と揚屋丸

乃と丸

乃

乃と丸

乃

新卒何代地徳屋

平井 子也

南左所徳屋

牧 子也

大善丸

投筆

高田 雲

神田 雲

市物

得津 雲

源 雲

日所 雲

磯 雲

吉原

初	二
二	三
三	四
四	五
五	六
六	七
七	八
八	九
九	十
十	十一
十一	十二
十二	十三
十三	十四
十四	十五
十五	十六
十六	十七
十七	十八
十八	十九
十九	二十
二十	二十一
二十一	二十二
二十二	二十三
二十三	二十四
二十四	二十五
二十五	二十六
二十六	二十七
二十七	二十八
二十八	二十九
二十九	三十

日所 人

石 雲

日 人

二八

乃と丸

伊予守藤原の正代皮不

武外若原忍不川分新着之目

家持藤原

権正初年

日人再

三十七

乃之正代皮不

小宮山正代皮不

乃之正代皮不

古田傳多米
三十九

日方正代皮不

茂多米
三十八

乃之正代皮不

右於許定所正代皮不曲測甲斐守松平田文
去合志守甲斐守中治守

一二月 所用表

松平周防守

米倉丹波守

牧野豊前守

高井七代守

牧野大隅守

安房守山守

奈永伊豫守

伊东伊豆守

松平田文

一 内朝月並しゆれ

河白書院

初 河目見

裁亦与嫡子

松平於義九

大廣間

阿蘭陀

切上取ん

是也
今馬代

秋中島

一 櫻子鉋

一 黒大羅紗

一 萌黄大羅紗

七反

七反

七反

一 白大羅紗

一 糸大羅紗

一 萌黄小羅紗

一 花之小羅紗

一 黒羅世枚

一 黄角了之

一 尺長大海黄

一 天長鴻大海黄

一 志也了了了

一 新織了了了

一 新織染了了

七反

七反

七反

七反

七反

七反

七反

七反

七反

七反

七反

一 上奥所

お孫女

一 奥所

お孫女

一 御書文所

お孫女

一 珠院所

お孫女

一 葡萄所

お孫女

一月二日

心

御書間

紀伊中納言左衛門

鮮鯛一斗

津田外記

右々昨日初ら

若君様 御對候 古海川の御礼を云々

一月四日 月日星等々 あり抄付ありと云々

一月五日 月日星等々 あり抄付ありと云々

一月六日

若君様 王子第上ありと云々

大廣間

小袖之振

阿蘭陀人

若君様 御書

日人

右の御書 御書に御書ありと云々 御書に御書ありと云々 御書に御書ありと云々

大廣間廊下

大通御

治政

堀 俊左衛門

久松統方
右河津佐清
久世丹波

出席洋紙

芙蓉間

田留吉

討振三

依田豊前

右大真向也修後田用十少勅

右中列元洋紙
一月七日不時

伊元間

元後

是也推入之教
伊馬寺也

徳川 岩子代教
伊一字治寶

伊力兼光 伊令推取

右伊對教 伊二字以也 伊盃 伊藥斗

伊投指備方國康光 伊令廿教

岩子代教

元後

紀伊中納言殿

右於伊次乃所通

伊黑書院

元後

是南院諸事
伊馬寺
伊乃亦以備廣伏念

孫芳為政
松平又八
伊字活字

右所自見 伊字之字 伊孟頂戴

右何侍從 伊乃主為伏念 推取之字

伊字紀
伊字紀
紀伊中納言殿

右若子代殿之指 乃伊禮使志之
伊字之字

二月八日 伊東書院海

松平下總守
若代
松平宗女正

右在所 伊宮院夫之月 拾別
七之西 洋信江 伊乃自 伊之中 伊列在 國乃
殿之 伊乃

一月九日

右在所 伊乃

拂子正納言

上卷抄源太師

右也及所 不付 伊乃 伊乃 用城方之役
被是也 伊乃 伊乃

右也之中 伊列元 出好也 殿之 伊乃 伊乃 伊乃
若年身元 伊乃

三月十一日

右新規之石出之百俵之下勸方之紙只今進

通也是之勸百俵之下勸方之紙只今進

仁行

三月十一日 中野村 小野村 中野村 小野村

上使大和守 松平筑前守

右新規之石出之百俵之下勸方之紙只今進

通也是之勸百俵之下勸方之紙只今進

仁行

三月十一日 中野村 小野村 中野村 小野村

上使大和守 松平筑前守

右新規之石出之百俵之下勸方之紙只今進

通也是之勸百俵之下勸方之紙只今進

仁行

三月十一日 中野村 小野村 中野村 小野村

上使大和守 松平筑前守

右新規之石出之百俵之下勸方之紙只今進

通也是之勸百俵之下勸方之紙只今進

仁行

三月十一日 中野村 小野村 中野村 小野村

上使大和守 松平筑前守

右新規之石出之百俵之下勸方之紙只今進

通也是之勸百俵之下勸方之紙只今進

仁行

右以 上使之由

一月十六日 月並之由

伊庭之間

侍從之由

今之由

右丹波守

伊白書院

此由

松平筑前守

伊白書院 伊庭之間 侍從之由

一月十六日

伊白書院

徳川孝隆公殿

右之由

若君稱初之 伊對歌 伊庭之間 伊白書院

城之申由

伊庭之間

市市書院

小南志之由

右新親之 右家下儀之由 小十人格 眞勅之

伊庭之間 伊白書院 伊庭之間 伊白書院

園防之由 伊庭之間 若年寄 伊庭之間

一月十七日

所石筆跡卷錄

此後江和年志卷錄

川務内記

町録

石吹十六日放吹之賭射式大の長
上流の形、成り精指南信存年々

右園防より反り成り若年より元信流記抄

漸濁間

町録

田付文三郎

土屋志四郎

水多源次郎

日村建左衛門

平岡与右衛門

松崎求馬郎

龜井平次郎

加原物三郎

芝山十之丞

村と大寺

右口の人の長幼也

右口の

二月廿六日 好目間

三列 勝山 所馬代

今更敷 他り 所より 振

右津進致

一 津之孫致

吉野院

一月之孫致

元傷

右之辰辰辰辰辰

門右代高家高川辰辰辰

一月序

高家

赤田院致

今之孫致

右之列磯山

伊宮正廷美守

伊右代出致

右之辰辰辰辰辰

一 伊書付出

来月之日

若君様 伊元辰伊親式辰辰辰

右之通向辰辰辰

三月

一 三月廿七日

上夜方得守

松平加賀守

津之孫致

右之辰辰辰辰辰

一 月廿九日

伊白書院致

松平陸奥守

代 伊達和泉守

右平方外通田村右京五更忠政喜子内膳
守也遠く下御旨周防右衛門守

芙蓉間

赤田伊豆守

代 榎原駿河守

青心伯耆守

代 永井日向守

松平長門守

丹波長門守

日光廿七日
卯辰代

卯辰代

卯辰代

卯辰代

代 三宅備前守

右へ通し 作行首大和守辰之 仁波へ

一 内山徳之助守と記

右家の袋よりのからまのいし

りしはわびり兵衛守

新成へかゝる急をよむ

追手あつらふまゝなる

急ひ歩たいと釣ね

あもよき書てもし

釣ねしつら先おりの綱

鬼のあ風呂よ入給ふ

右同判 付少進 高家
新井院使
中條山城守 若原之孫哉
大文使

上使同部大括

高倉公宰大式

一 同日卯二日

若君標 湯之腹 湯親式 付布衣以下一役 是取人
以素袍着大廣間 以和具以下之事

一 湯城內 是進山供出 衣服之儀 是奉給之通 林下

有用之事

右之通 倭友倭勢守 亦亦達也

一 同日 公家 庭堂 殿中 將家 束

一 若君標 湯之腹 湯官位 湯親式 有之

一 若君標 今日 大廣間 出御 出侍 云

湯月見 亦亦 作本 以旨 於大廣間 出卷 中出列 在

周防守 殿 亦亦 作後

一 湯親式 亦亦 湯後 亦亦 有之 亦亦 固防守 殿 亦亦 作後 亦亦

松平 田文 亦亦 達也

一 若君標 從二位 大外言 御任 釵 出御 前大廣間 而

宣旨 湯位 記 亦亦 請 亦亦

一 若君標 湯 裏書院 出御

湯加冠

井俣 掃部 頭

湯理發

松平肥後守

湯島帽字

松平周防守

津杯

鳥居丹波守

打乱箱

酒井飛騨守

右湯總式勅之書解

湯將家束衣

右替

湯衣牧

高倉公掌大式

湯脚回

志保内控弁

右書解

公方棟 出御

若君棟 湯手自湯厨斗蛇衣進之書解

之内公殿臣部公殿 湯對顔早向老中丹波守

出御守若年考中 湯目見 右早向

一 公方棟 若君棟湯白書院 出御

勅使

油小路前大納言

久我大納言

仙洞使

四辻前大納言

女院使

庭田宰相中將

新女院使

持明院前宰相

大官使

三宅戸前宰相

右 湯對教有之奉願之湯祝儀

公方棟

同

禁裏

仙洞

湯左刀目録
黄金二枚

同
女院 新女院
六宮

湯左刀目録
黄金三枚

湯左腹之湯祝儀

同
禁裏

湯左刀目録
黄金三枚

同
仙洞

湯左刀目録
黄金三枚

湯左刀目録
黄金三枚

若君極は公進物

右同判

同
女院 新女院
大宮

湯左刀目録
黄金三枚

湯左位之湯祝儀

同
禁裏

三種式所

同
女院 新女院
大宮

若君極は公進物

式種一所

右同判

右

善若標 湯之腹之湯收儀

水戸宰相殿
尾張中將殿

御對顔

井伊掃部頭

松平肥後守

井伊玄蕃頭

松平瀨波守

松平駿河守

松平越前守

右同判之付

御目見

一 重為湯震書院

公方標 出御

全馬代

井伊掃部頭

右 湯目見湯盃頂裁之湯刀為廣代全二十枚

左 湯目見湯盃頂裁之湯刀為前國之重代全拾六枚

斬之湯中之上之 上意有之 運在

松平肥後守

右 湯目見湯盃頂裁之湯刀吉則代全二十枚

左 湯目見湯盃頂裁之湯刀

一 善若標之湯禮

公方標之湯禮

湯之刀

宝考代全八枚

一腰

湯禮

補具俵

一頰

湯弓

重藤

一張

湯矢

式指

湯馬

鞆置

一疋

井俣掃部頭

右 湯目見湯盃頂裁之湯弓刀光忠代全大牧

湯馬鞆重湯脇裁別重代全式百枚等之湯禮

中之湯刀俵弓回守次代全千枚湯脇裁東國光

代全之予黃獻之志申之之退任

湯弓刀

俵國光代全大牧

一腰

湯馬

鞆重

一疋

松平肥後守

右 湯目見湯盃頂裁之

湯弓刀之京代全七枚牧等之湯禮中之

湯刀青江貞政代全六枚牧獻之志申之之

退任等白

入御

公方標

義君標

湯小弓刀代全六枚黃

湯弓刀近京代全千枚

右旅

湯禮間永進

湯使宮原和泉守

院使

湯橋一筋

院使

同 由良播磨守

同判

新女院使

大文使

高峯公家

右 湯對款在河比付元書之具羽後大目湯能云

作付山間湯登 城湯見物可云在比首云作也之

湯使酒井對馬守

水戸宰相殿

同 松平志磨守

尾張中將殿

右 湯後大目湯能云 作付山間湯見物可云有之

云 作也之

一 若君標 湯元服 湯官位局出教儀持取門跡方方

湯書付出

若君標今日方

大納言標乞可奉祿比

世辰可云云觸也

四月二日

一 同五日

大納言標 湯元服 湯官位局出教儀

公家所登 城湯地乞湯能有之

湯能明細書

菊
三番叟
西若持
十歳

深右衛門
大藏深右衛門
梅若六郎

松竹風流 傳右衛門

子藏 名安川六左衛門
松精 成井深右衛門
竹精 名安川右衛門

岡口

うれみおりののちりはさく久しく様
枝もあふさぬ若竹の伐りの業を例やく
初冠のことゆきいめてたりりり時とて

弓八幡 鏡世とて又

宮口 久右衛門 六藏
同 近友孝次 源右衛門

又六郎

間

深右衛門 倉右八郎

福の神 傳右衛門

方と 久田深右衛門
同 名村茂左衛門

田村 又右衛門

原右衛門
小島田右衛門
茂右衛門
前川右衛門

久左衛門
清右衛門

表作

間

栗焼

彌右衛門

深右衛門 田久右衛門

彌右衛門

新右衛門 大田深右衛門

三郎左衛門

松八郎

羽衣

剃之遊

山田守魚

清次郎

尾之魚

湯中入

栗脚

廣蓋

七支子

建

尾川市節魚

万作子

建初節魚

同

日向台節

同

日向台魚

同

美林孫江節

同

尾之魚

同

祥作節

同

三之節

紅系將 七支子

万作

九節八節
剃九節

剃三節
又三節

同

野村理之節

同

久留孫平

同

深尾控之節

同

井上之節

同 同 兎玉次節之節

同

建刀治節魚

間

祝之

流之遊

久留孫子

尾崎半七節

控之節

養老

長谷川流之遊

甚之節

劫之節

一 同六日

紅系山

湯宮は六半時は三寸五分

一

成爲

成回時は三寸五分

還沖

一 公方株

還沖以後

大納言株成爲

成水

一 同七日今日

湯込言付殿中將袋束

湯白書院

銀貳百枚?

銀百枚
綿百把

湯元腹 湯官位付

銀百枚?

大納言棟

銀百枚?

銀百枚

湯元腹 湯官位付

銀百枚 綿貳百把?

銀貳百枚 綿百把

銀百枚
綿百把?

油小路前大納言
久我大納言
四辻前大納言

油小路前大納言
久我大納言
四辻前大納言
庭田宰相中將
持明院前宰相
三宅戸前宰相

油小路前大納言
久我大納言
四辻前大納言
油小路前大納言
久我大納言
四辻前大納言

庭田宰相中將
持明院前宰相
三宅戸前宰相
高倉大宰相

銀六枚
時服四

銀百枚
時服六

右湯堂中比列座洋領書解

柳間

公方様

銀拾枚時服式

公家産使者

拾式人

時服式

吉田二位使者

於麻丹波守

樂人惣代

銀拾枚

湯冠作

園 伴豆

同式拾枚

湯馬帽子作

本村肥後

叔中次作

湯未廣作

園村澄路

右湯帳

右至履頭殿比列座洋領書解

同席

大納言様

浪三指枚時辰三
浪式指枚時辰二

押小路大外記
山口少内記

全六支覽箱料

浪指枚
時辰式

青木主針少元
青木玄番小元

全六支覽箱料

高倉大宰大式家元

浪指枚
時辰式

栗津越前守
栗津近江助

右湯崎

右丹波守辰湯中在洋領書海

同席

浪指枚

妙法院宮使看

時辰式

松井重少元

右湯崎

右主殿辰辰湯中在洋領書海

浪式指枚

知思院湯門跡

大納言棟方

同指枚

湯同所

右使看湯崎一節

一

同八日

日光湯馬代

一金五枚

作り湯五日

羽月間

高家

全五枚

前田保良寺

時辰六

右月光十七日

湯谷代湯時

初織

青山伯耆寺

右月光十日

湯谷代湯時

右主殿改殿由中庭進献由日浴由湯谷代湯時

時辰三

松平長門寺

羽織宛

丹羽長門寺

右日光 湯系禮奉由也時

右湯室中由列庭洋領由時

一同五日

帝疆間

戸澤上総助

織田山城守

関 俊永守

新領守

右者今朝公求取湯後与三付為由由登

成

湯室中湯有

一同

同日湯草筋は六半時より供持

成

一 七時迄守部 還所 湯供

右見守殿
周防守殿
伴勢守殿

湯書付出九

湯之股 湯官位書所 湯禮

四月十六日

一 表向五半時枡

右通可云右觸

一 同十六日

大納言棟 湯之股 湯官位書所 湯禮

有之 芝達向湯書付之通也 右刀馬代獻 有之

殿中出仕之由之耐斗自長袴着用

一 同十六日 湯之股間

湯刀 俣前被定代全下扱

松平周防守

時股六

酒井右見守

右看 湯之股 湯官位湯用右劔比付之

時股六

鳥居丹波守

酒井飛騨守

井伊之部守

湯側湯用湯取次

福系越中守

横田瓶後守

湯小姓組番頭格貞劔
湯用湯取次

同入?

同四

不御守

西丸湯小性組番頭格貞勤
湯用湯取次

同式

田沼能登守

西丸湯小性

湯小性

湯小納戸

真醫作

湯伽四入

卷物式

右同判為湯祝儀於真守

同十七日 紅系山

湯宮六半時三寸六分五厘為 成六半打八寸四分五厘

還御

大納言標六分五厘 成

同十八日

大納言標濱湯度六半時六分五厘為

同廿日上節

大納院 湯靈屋六半時六分五厘為

成四半打八寸四分五厘

湯六分五厘 還御

湯庭間

高床

日光十七日 湯石代

前田保良守

大納言標 湯石代

松平長門守

同所湯六分五厘奉

丹羽長門守

右朝俸付 湯目見布

芙蓉間

高栗

時服三

有馬之部大傭

右大納言様 湯元服 湯宿位比用右勅少付

湯目付

村三三十郎

同式

伊友伊勢守

右同判

右出乞中比列在座 湯領古紙

湯右筆部左縁顔

表湯右筆

伊三木又次郎

全式牧

右同判

都筑毫之助

右周防守殿比在座 湯領古紙

土圭間

真湯右筆組頭

上村派三郎

全式牧 時服式

右同判

真湯右筆

中及長左馬

全式牧

大和徳兵衛

右出乞中比列在座 湯領古紙

一 同廿二日午時湯禮系勅湯禮有之如例其外

湯禮 上使有之

湯禮間

湯小性組番預格
湯用湯取次

湯側用湯取次

不御伊勢守

西丸湯小性組番預格
湯用湯取次見習

西丸湯側取次

作付

田沼徳全守

子貳百石湯加増
都合貳千石高

右旋

湯取次

作付

一 同廿八日午時湯禮湯書院湯順有之

一 同廿七日旋西丸湯禮有之湯書院中丹波守殿出好守殿

着奉言可成西丸是見物也

作付

一 同廿八日月並之湯禮有之

湯書院通

井伊掃部預

松平肥後守

右肩

大納言棟 湯取次湯長上下湯上下之具宛洋儀

永 作付

一 同晦日湯上守

有章院棟 湯靈座口六半時為 成四半時守

外方 還御

湯代官

辻六郎左馬

出入書付

私比代官所下野國物復那東當城村百姓利左馬
中者極實神為奉末母也孝以仕別為二年夢母
病來為惣用而計少如直夜在末休外拘仕稀末
孝公之辰村役人隣村名主一同許出少甘也代官持付
并家考村之許也取礼少安右利左馬後等四名余所持仕
兄弟妻子也之生得實神為農業出情仕

公儀之奉重前之公 作出比法如之趣堅くお守都の
村役人二致じ極困寃三比在御許也奉負諸役之儀也

各主之別觸及例年余人古先之為分お納是速名仕
惺慢不請儀之村内之勿諦隣之知音之者也親友
喧嘩口論公事出入不仕也彼更向市在祖父八利左馬
未生功考お果祖母七廿六年功考利左馬十六之良病死
仕右病中八之義年終之にお忠之直夜抱之不離附添
看病仕請之之能寒中為老人之成及子足治簡利左
版一高之始候過之也者病仕親八十九馬五中廿九年
功考利左馬十一之能病死仕右病中之儀也困寃者
之為家也破損仕少安村内親類名左馬五中者引哉
打外新五比知少方之也お欲キ前書同様
附添看病仕之役担之人にお成るを為又孝行と之

●● 伊豆下総守
●● 坂部十郎左衛門
●● 河内右左衛門
○○ 阿部左門

上矣

●● 竹川玄十郎
○○ 坂部新十郎
●● 坂浦右之助
●● 青山播磨守
●● 九七中務少輔
○○ 小笠原治郎

下矣

●● 高山平左衛門
●● 牧野哉少守
●● 大久保新八郎
○○ 植村傳六郎
○○ 木村次郎左衛門
●● 久保田新之丞
●● 石野全右
●● 大屋甚兵衛
●● 阿部左四郎
●● 深津源一郎

●● 松本孫三郎
●● 朝倉常次郎

●● 諸星左三郎
●● 門宗孫三郎
○○ 新見大炊政

一 四月廿五日清小性新見後く助登

城へ歸後河

九坂坂より川用屋敷普請く音に馬路等々牛馬等
に馬鹿ひ込自らも一所に居常馬路一所に飛ひ入
抱し山堂

五坂少くふ意のふんきよき後く助
相色新見か馬乃らとらとら

一 左に二月於長崎丸山清洲く高船に宗来山中幸
人丸山遊女と相對死しう山堂

南条菡花人

陳仁舎

廿二

欲語江波滿錦筵

粉黛明鏡更堪憐

十年怨夢一時尽

共為北邙山土烟

右七絶

目丸山あつまや内

連山

十九

かり増る洞の雨風も

けふとうもりのこの美竹よ

久世大和守

ら世つる運事ぬめよして

やまとついでをれそ冥宿

水野出羽守

く三本道具ちてんのうま

落したんちやうとそぞちやたん

井伊之部少輔

来柄てたぬますいりまぬ出ら
せづとあ飯着湯を中

阿部能登守

設屋安かみあはく増田て
飾すすよいらのそあは

高兵丹波守

親とつりの屋敷と湯島

候屋よりえんた丹波大栗

左田佐後守

され路をひちかこうちやう階

を中あつたをかけ川

福永越中守

万石の福永を志なるさう田の

美年考のさあへぬん

増田お掬守

更へし屋敷はせましく中近

増田てぶらしてさうけてそあ

一 四月廿九日湯張紙出に虫使百俵有之松兩三分二米
世るかみ虫使もさる米もさし時成
二十六の他法身ぬち子に方一しと
くちりけれりやいのりてもう
虫使に方と積んしとむたむあ
してゆえん ふうりりり

一 六月 湯用番

- 久世大和守
- 松平信俊守
- 井上河内守
- 佐藤右衛尉

一 六月朔日月並湯禮有

湯庭間

- 牧野大膳守
- 松平信臣守
- 素原信隆守
- 村三十一郎
- 赤部大膳

大納言録

湯官位付京都に湯使

備後守に湯使に裁出

- 高家
- 松平備後守
- 中條山城守

湯官位二付

同

大納言椽 京都 湯使

戸田土佐守

湯白書院

全馬代

尾張大納言殿使者

大納言椽 湯之後 湯官位 湯使

成瀬真人正

諸湯禮案 請少之付

科目間

全百枚

松平攪波守

時服十

右京都湯使 湯使

高家

全式振牧

中條山城守

右丹波守殿 湯市 湯領 湯使

右大和守殿 湯市 湯領 湯使

同席

大納言椽

高家

全式振牧 時服八

戸田土佐守

右京都湯使 湯使

右丹波守殿 湯市 湯領 湯使

同日如例年獨午時服惣献之有

於真湯能有

同日 種姫君椽 湯部屋棟 湯使 湯使 向

湯後二付役制向靜二致少私安及心慮必達之

一 同八日上野

一 養有院棟 湯靈前二 泖成雨天付也延川

一 六月十一日中後

也德菅原上總助組元也德當時大塚護持院末

後草阿部川町新徳院方二張止也

渡人

間館惣助

三十三

一通り 右同

當時中洲新町傳六店

易く一楊屋の老久

渡人

後宋哉二帝

二十八

也德菅原上總助組元

松本久治帝

三十二

同割

全田利三帝

二十八

後草元可求持札

小島屋権左衛門守代

廿九

四十八

右権左衛門権三付

代り 長助

二十九

一通部二一書也

右於牧野大隅守也役完末右長左衛門三合大隅守

中後

一 同十二日

湯側湯用湯取次

中禰修執守

小川町酒井権樂頭屋敷千二百貳拾坪余
東作大末右屋敷西隣海邊右四節洋領
屋敷八百六拾坪之内百六拾坪海地
同割東隣川村主針洋領屋敷千二百七坪
之内貳百坪海地
七拾坪

西丸浦側右同以

田沼徳登守

東隣大河内右十節洋領屋敷二百坪同割
續酒井秩藏洋領屋敷六百坪為海地

一 同十二日

大納言祿羅漢寺筋

河成兩天付也延以

芙蓉間

尾張殿東迄

右河修慶守

右時惟三付也痛有之也後是延以順達
湯徳家早見者末也可お暮時節候之加
養生尚秋中系府宮立お振との由事也首
大和守中後

一 八月十日中後

湯苗守長支配

真火く番

右藏伴

富田八く助
二十一

淺草桃林寺門前

月行事

由右衛門
六十二

一通り易く上

お返し

同判抱番人

平助
二十六

右牧野大隅守比設免おのり未長右馬守之令

一 同十六日月並湯禮有く

湯白書院

紀伊中納言殿使者

大納言様 湯元殿

朝紫惣左衛門

湯官位お師の坂湯禮有為

請山付

紀伊中納言殿使者

水野 繁門

尾張大納言殿使者

大納言様

湯元殿

成徳半左衛門

湯官位く湯禮儀有為湯禮

紀伊殿

湯用人使者

同判湯禮儀有為并

前中納言殿常陸女殿

高木左左衛門

少輔

同判出役儀

紀伊前中納言殿使為

中納言殿常陸女殿

山中作左衛門

一同十七日紅系山 湯宮惣 湯靈屋

分爲 成回時 湯寸考 還沖

一同十八日午後

西丸湯書院番湯江陽役寺同公

石川安太郎

一通 湯屋

湯書物奉行組同公

小川三右

右同判

二十四

一同廿七日

大納言棟 湯之殿 湯官位 湯祝儀

日光湯門跡坊上寺登 城湯能有之湯表

出沖

一同廿八日月並湯禮

當日湯祈禱料 湯使有馬之部左衛門

浪百枚 日光湯門跡

右所 上使

湯使前田伴五守

白編緬十卷

日光湯門跡

同同人

同大光

隨正樂院宮

右着

大納言棟 湯元殿 湯官位為湯祝儀
大納言棟

根二根牧

日光湯門所

編緬二十光

同武根牧

隨正樂院宮

同十光

右同判 付少光

一 同亦九日

文昭院棟

有章院棟

湯靈屋湯普請湯用棟

惊信院棟

大木寺殿 湯象 大作

一 六月廿七日

大納言棟 湯元殿 湯官位湯祝儀

日光湯門所 湯上寺方大湯代 湯徒組

舟

二番叟

傳存

十歳

各廿川六五

九席

控八席

竹生鴻

六右衛門

新九席

控八席

去日四席

全去去支

田村市

大木寺

中西十

間

錫八とち

彌を市

倉長長右右馬

目代

大藏源惣惣馬

あ

倉長八三三市

箴

又又市

辰辰右右馬

村上文以以市

助六市

格三市

勘勘市

角野繁以以市

間

栢山伏

仁仁右右馬

あ

矢田治市

小塩

總世を文

久久右右馬

大塚辰市

六六藏藏市

又又六六市

大藏半助

間

教生石

七七右右馬

辰辰市

三三市

辰辰市

鼠鼠市

小小八八市

園村辰右右馬

間

祝祝文

三三市

山田傳市

全全札

格格市

傳傳七七市

一 先この市友射列をいひ好き少くぬくこと中あ

常る側るお手いりし暮経比

短夜をぬくりして寐よ

あすりしを

あいつ中

故をたるとたつぬうしこまうたこ

まらんと終乃と今日キのり

介り女何終夜

心そりよ日乃終

考むくとも

後と終女すまう同く

志の奴とも

心かく終女人乃事

辞世

ありひさ又津敷女のおよかり終

終女はうりて終日終見んとも

か終とさうしおの日とんと終

終かいはねら

比こくともさうしなりの女

死女乃月

一 世頃中判回向院の和尚夜中殺害

回向院佛七と袋おそら

首らと終くも終事と終

○ 水戸殿願分

常列麻湯郡祝町

且怪

一向宗願入寺東東

右村小助

松平隆真守領方

真判江州郡行園村

百姓権内将

友七

湯書院苗朽木和泉守組

松井源助知所

一武則良判是之郡午市村

百姓

法文帝

右小助友七法文帝見を討中坐坐友小助儀印
吟味。右助有之江戶表と入軍致坐坐友人及

取丹方不敵討領が府いり坐坐後たたか

右原回書

小あふ以〜と北坐といひま

旅あふ以〜と道中といひま

殺川あふ以〜と祿と角町といひま

稀あは作事と新田といひま

牛あふ以〜と及といひま

馬あふ以〜と河内といひま

梅あふ以〜と庄といひま

そんと鳴るはたいこといひま

まゝはるのく様とふいふ
馬床の男とおふりといふ
好ふゆ成助を信とふ
利生もふとていふ
見入様と信とふ
ともふとていふ
志や川と信とふ
くふのあふ様と信とふ
奥ふとていふ

音とあくと信とふ
後あふれと信とふ
まかちと信とふ
今あけと信とふ
焼りのあふ様と信とふ
ふあふと信とふ
屋りてといふ
か瓶と信とふ

Handwritten text in a cursive style, likely a letter or document, written on aged paper. The text is arranged in several vertical columns, reading from right to left. The characters are somewhat faded and difficult to decipher precisely, but appear to be in a traditional East Asian script.



Small handwritten mark or signature at the bottom left of the page.

